

# “至 誠”（新たなる歴史に向けて）

校長便り 2018 第6号

## 1. 授業見学が終わりました！

「校長の授業見学」を先生方にお願ひし、11月12日で無事に終了しました。四日市商業では生徒があまりこのようなことに慣れていないのか、私が教室に入っていくと結構驚かれることが多くて、先生方に迷惑をかけたかな、と恐縮しています。前任校では定期的な授業見学以外にもしょっちゅう見せてもらっていたり、外部の見学者も多かったりで、生徒も「ああ、また来たか」程度で平気でやっていたため、その感覚が抜けていなくて…。邪魔になっていたら申し訳なかったです。でも、このように集中して授業の様子や皆さんの様子を見せてもらうと、自分自身も勉強になったり気づいたりすることが多く、ぜひとも学校経営にも反映していきたい、という思いが強くなります。先生方個人の授業への感想はまた直接伝えますが、今回の「至誠」では生徒の皆さんに対する私の感想を述べたいと思います。

私は皆さんの授業に臨む姿勢はすごくまじめだと思います。授業の開始チャイムではみんなが準備をして教室に着席しており、授業中に居眠りをするような生徒はほとんどいない（これは別に校長が見に行っているからというわけではないと思います）。先生の指示通りにしっかりと演習したり、話を聞いたり、たぶん、昔の感覚からすれば全く文句のつけようがない授業態度でしょう。しかし、教育改革が叫ばれ、学力の定義も①基礎的・基本的な知識・技能（という旧来からの学力観）に加えて②思考力・判断力・表現力などの活用力（をつけて知識・技能を生活や社会に活用・応用する）、③主体的（協働的）に学習する態度、の「学力の3要素」と言われるものに変化している今日にあっては若干物足りなさを感じる部分もあります。授業においてもただ聞いて、黒板を写し、暗記する、といった受け身の授業から自ら授業や課題に対して積極的にかかわっていく（主体的な学び）、他者とのコミュニケーションを取りながら協働して参画する（対話的な学び）、授業等で身に着けた力を様々な課題や社会での問題解決につなげていく（深い学び）が求められています。

その点で本校は特に専門科目においてすでに探究的な学習が実践されているケースもあり、1年生での基礎的な知識・演習から「深い学び」へとつながるカリキュラムができあがっているのは大きなアドバンテージです（社会での生きる力を養う観点で）。例えば、3年生の「財務諸表分析」「財務会計」の授業では「流動比率」「当座比率」「収益性」「株式資本当期純利益」などの知識を生かしながら、グループでテーマを決めて具体的な問題について二つの企業を対比させる。それを授業内でプレゼンする。これなどは生徒自身の仮説—検証が入れば、そのまま新学習指導要領で最も重視される探究学習として成立します。テーマ設定も「フジパンが業界1位になるためには?」「〇〇寿司の売り上げが落ちている理由」「飛び続ける飛行機（JALとANAの業界比較）」「〇〇と〇〇、どちらの株を買うべきか?」など、私自身も見学を飛び越えて興味深く聞いてしまうような面白いものがありました。また、2年生流通コースの「ビジネス実務」ではインターンシップの事前指導の授業を見学し

ましたが、企業から与えられたテーマを先生にアドバイスをもらいながら演習、本番の体験に加えて事後学習を行うなど、その手法も含めて新学習指導要領に示された新たな時代の学びになっていて、ぜひ普通科高校の先生たちにも見てほしいと思いました。

普通教科においても、まず感心したのが理科や地歴・公民（特に公民）の教科書。商業高校で採用している教科書を初めて見たのですが、内容が非常にキャリア教育的で将来、日本社会やグローバルな世界で課題になる分野・テーマに特化されており、ESD教育（＝持続可能な社会や世界を作る教育、これについてはまた説明します）にもつながる興味深いものになっています。授業も先生が説明に終始することなく、どんどん質問を投げかけ思考を促す。それにみなさんが積極的に対応して活気あるものになっています（この積極性はなかなかほかの学校では見られない本校生徒の美点だと思いますよ）。ただし、キャリア教育の本質は「ひとり一人を大切に、誰も置き去りにしない」ところにあります。当然のことながら、みんながみんな積極的に発言できるとは限らない。また、質問がなく先生の説明が続く場合もあるでしょう。このようなケースも含めてだれもができる主体的・積極的な座学の授業の受け方を教えましょう。

そもそもアクティブラーニングという言葉聞いたことがあると思うのですが、「今後の社会で必要な力をつける授業」と言い換えてもいいと思います。繰り返しになりますが、文部科学省では「主体的、対話的で深い学び」と定義づけています。つまり、生徒が主体的に考えながら授業を受けたり、勉強したりする。仲間とテーマについて語り合い、さまざまな資料を読み、自分たちの考えをプレゼンしたり言葉で書いたりする。それによって自分たちで反省・評価をしてさらに考えを深めていく。このような勉強や授業がこれからは必要になってくるのです。その基礎的な力をつけるためにペアワークやグループワークを使うことが多いのですが、いつもそれができるとは限らない。それなら、ふだんの授業ではただノートをとるだけではなく、先生の説明や教科書に書いてあることなど、なんでもいい、自分が疑問に思ったことやおかしいなと思ったこと、面白い言葉だなと思ったこと、印象に残った表現など、ノートの片隅でいいのでメモをする習慣をつけてみてください。もう一つ、先生方が授業や単元の最初に「この授業、単元を通じてこのような力をつけてほしい」「このようなことを理解してほしい」「このようなことができるようになってほしい」という「授業目標」を説明してくれると思います（先生方にはそのようにお願いしています）。授業の終わりにそれがどれくらい達成できたか、振り返りを（3分でも5分でもいいから）やってみてほしいのです。これが皆さんの自己評価力や能力の向上につながります。

本当は「なぜそうなるのか」ということも含めて説明してあげるといいのですが、今の私にはそれだけの余裕も機会もありません。今はだまされたと思って（別にだましていませんが＝笑）実践してみてください。将来、どこかで生きてきますから。

あと、感心したのが多くの教室においてしっかりとした環境整備ができていること。特に（意識しているのかどうかはわかりませんが）「ユニバーサルデザイン（これについてもまたどこかで説明します）」に基づいた環境が整えられている教室が多いのには本当に感心しました。前の黒板には掲示物を貼らない、ここには行事関係、ここは生徒指導、ここは進路情報・・・などキチンと区別して掲示している、掲示物は四隅が止められている、ロッカーの上にはなにも荷物を置かないなど、これだけ

でもできていれば「誰もがストレスなく気持ちよく学習できる空間」になっているのではないのでしょうか。逆に、一つだけ注文があります。授業の最初と最後の「礼」をみんながキチンとしてほしい。見ていると室長が「起立、礼」と声をかけていても、ただルーティンとして立っているだけ（だれもキチンとお辞儀をしていない）で、挨拶になっていないケースがほとんどです。挨拶をどうするかについてはそれぞれの先生の授業観が反映され、様々な考え方がありますから、私が「やるか、やらないか」を決めることはできません。それぞれの考えに沿ってやってもらえばいいと思いますが、「やる以上はキチンと」やりましょう。

## 2. 部活動と校外活動

今回は臨時増刊を途中で出したこともあって、通常の「校長便り」は約1か月半ぶりになってしまいました。この間にもいろいろなことがありました。10月17日には同窓会の本部総会に出席しました。先輩方に皆さんの活躍ぶりをプレゼンさせてもらいましたが、本当にみなさん、よろこんでくれました。3年生はもう数か月で同窓生に立場になります。ぜひ、卒業してもこのような会に参加してくださいね。

11月3日の産業教育フェアでは3年生の積極性といざという時の底力を見せてもらいました。11月4日の東海実務検定では壮行会で話した「岐阜、愛知の一角でいいから崩してくれ!」という願いはかないませんでした（静岡がすごい勢いで優勝をいくつもかささらっていったこともある）、団体5種目中3種目が7位か8位でもう一步で入賞のところまでは健闘してくれました。個人でも情報処理で4位と6位に入賞で全体的にも例年よりいい成績だったということです。

全国大会をかけた三重県大会、東海大会においてもバスケット部が圧倒的な強さでウィンターカップへの出場を決めれば、テニス部も東海大会を勝ち抜き東海チャンピオン、シード校として選抜大会に登場します。バトン部も東海大会において過去最高の成績をひさげて全国大会に3年連続名乗りを上げています。これ以外にも前回の表彰式、壮行会以後にギタマンが優勝（東海大会へ）、ハンドが新人戦県大会優勝、陸上（駅伝）が県2位で東海大会など書ききれないほどの活躍ぶりです。これらは本日まとめて、表彰・壮行会を行います。

(11月28日)